

氏 名	つる 鶴 田 格
学位(専攻分野)	博 士 (農 学)
学 位 記 番 号	農 博 第 1214 号
学位授与の日付	平 成 13 年 9 月 25 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	農 学 研 究 科 農 林 経 済 学 専 攻
学 位 論 文 題 目	中部タイにおける都市化と農村社会の変容に関する研究 ——農民の社会関係の広域化にともなう労働・儀礼・遊びの再編過程——

論文調査委員 (主 査) 教授 祖 田 修 教授 辻 井 博 教授 野 田 公 夫

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、中部タイの農村地帯スパンブリー県を事例として、戦後を中心に生起した経済発展と都市化の進行が農村においてどのような社会変容をもたらしたかを、稲作生産、冠婚葬祭、そして農民の重要な娯楽であり表現の形式であった民謡などの諸生活領域について検討したものである。

まず第1章においては、序論として、上述のような本論文の課題を明確にし、先行研究の整理を行った上で、本論文でとりあげる具体的な対象を限定し、その分析の際に依拠する理論的枠組みについて述べている。とくに、タイ農民の基本的な行動領域を「労働」「儀礼」「遊び」という三つのカテゴリーに分割した友杉孝の論考を紹介し、本論文の論述を基本的にこの友杉の所論に従って展開することとしている。

第2章においては、次章以降の記述に対する予備的な考察として、中部タイの社会経済史を概観した上で、スパンブリー県にある筆者の調査村における、20世紀初頭の開拓時から現在に至るまでの農村生活の変容について概括的に検討した。

続く第3章と第4章においては、1960年代以降の社会経済的变化がもたらした調査村の村民間の相互扶助関係の変容を、「労働」および「儀礼」の各々の領域において検討している。

第3章では、村レベルでの「労働」すなわち稲作生産をめぐる社会関係の変容を考察した。1950年代までの段階において、調査地域における稲作生産は自給的な色彩の濃いものであり、そこでは近隣の世帯および親族間の相互扶助（労働交換＝アオレーン）が盛んに行われていた。しかし、1960～1970年代以降の稲作生産は、国営の灌漑システム、公的金融制度、政府の農業普及事業などに支えられながら、個々の農家が世帯毎に独立して、市場や公的機関と直接に取引を行う個人主義的な営利事業へと変貌した。この過程で、従前のアオレーンは後退して雇用労働が卓越するようになり、それとともに、作業中に疲れを癒すために歌われていた民謡や、共同作業のための仕事歌も消滅したとしている。

第4章では、貨幣経済の浸透と都市化の進行とともに、各世帯が主催する個人儀礼である冠婚葬祭の形態と、それをめぐって世帯間で行われる贈与交換（アオレーン）とが変容していく過程を、実証的なデータを用いて検討した。その結果、これら儀礼をめぐる世帯間の相互扶助は、従前的人格的な助け合いの色彩の濃いものから、貨幣を媒介とする規格化された非人格的な贈与と交換の関係へと、その性質が大きく変容していくことが明らかになった。同時に、儀礼そのものの形態においても、式次第や祝宴の形態がバンコクを中心に発展した都市的消費文化の影響を受けて大きく変化していった。

第5章および第6章では、上記の調査村を離れて、より広い範囲で民謡という「遊び」の変容を考察している。

第5章は、中部タイ民謡の発展についての歴史的な考察である。スパンブリー県独自の民謡として有名なプレーン・イセーウは、最初は一般の農民によって単なる戯れ歌として歌われていたものが、20世紀の前半に、都市で発展した歌劇の影響を受けながら洗練された舞台芸として発展したものである。それは、農村における現金経済の浸透とともに、上演によって金銭的報酬を得るところの職業的民謡歌手によって、農村部で盛んに行われるようになった。こうして舞台芸化した民謡は、しかし、1960年代に、バンコクで発達したラジオや映画などの近代的な娯楽が農村部にも浸透していくにしたがって衰退の

一途をたどった。

第6章では、それら舞台芸化した民謡がいったん衰退したのち、1970年代から新たな形で商業音楽として再生していく過程を、ある著名な民謡歌手を事例として検討している。そこでは、従前の民謡が、1960年代からバンコクで発展した大衆歌謡「ルーク・トゥン」に影響を与える一方で、1970年代後半になると、今度はその大衆歌謡のジャンルで活躍してきた一部の歌手が民謡を現代風に改変し、商業化することに成功していった。このように20世紀前半には農村で演じられる舞台芸として発展した民謡が、20世紀の後半には、一方では大衆歌謡として形を変え、全国的に普及した。

最後に第7章においては、結論として、都市化と貨幣経済の浸透によって中部タイ農民の社会関係が広域的なものへと拡大していくに伴って、農民の三つの基本的な行動領域としての「労働」「儀礼」「遊び」は、それぞれに従前の形態を多分に残しながら、都市部を含むより広い範囲で流通可能な社会的・文化的形態として再編されていったとしている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、中部タイ稲作農村社会が、商品経済の深化、都市化の中で、どのように変容・再編されてきたかを、腰を落とした長期現地調査によって明らかにしたものである。そして農村社会の変化を、生産面に関しては労働における相互扶助関係、社会関係に関しては冠婚葬祭をめぐる儀礼、生活に関しては遊びとしての民謡を取り上げ、3つの側面から多角的に考察した。そこから都市的なものの農村への影響だけでなく農村的なものの都市への影響という相互性も浮かび上がらせた。

評価すべき点は次の通りである。

第1に、1960年代以降に生じたタイ農村の大きな変動過程を、総合的に把握するという視点から明らかにした。ここで総合的とは、農民行動を主要な3つの領域すなわち労働、儀礼、遊びの面からの考察である。それによって農村社会の変容・再編の全体像が明らかにされた。

第2に、農村の変容過程を単に都市的なもの、いわば貨幣流通を基本とした商品経済、近代的な生活様式の農村への浸透という側面だけでなく、例えば民謡のように農村の伝統的芸能が都市で舞台芸能化するプロセスを捉えるなど、都市・農村の相互関係の中で把握した。

第3に、労働においては、アオレーンという稲作における相互扶助が、稲作生産の個人的能力を活かし商品生産を行う営利事業化に伴い、賃貸、雇用といった貨幣を媒介とする相互関係へと転化したこと、いわば「計算された相互主義」とでもいうべきものへ変容したことを、実証的に明らかにした。

また冠婚葬祭という儀礼においても、無報酬的で共食共飲するという濃厚な祝宴の交流から、貨幣を媒介とした合理的・効率的・貸借の関係へと変化したことを明らかにした。

第4に、日常的な民謡の中から育ち、伝統的音楽を基礎とした作曲家が、全国的な歌謡ジャンルへと発展させ、あるいは農村出身の民謡の担い手が、都市的な要素を取り入れながら舞台芸能、大衆歌謡の歌手として活躍するなど、都市・農村の相互関係の中での国民的文化形成プロセスを明らかにした。

以上のように本論文は、タイにおける経済発展のもとで、農村社会が、農業生産、社会関係、生活文化の諸側面において、都市・農村の相互作用の中で、変容・再編された過程をきわめて具体的に明らかにした。本論文はタイ農村経済社会の研究に資するだけでなく、農村社会学、文化人類学などの発展に貢献するところが多い。

よって、本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成13年8月22日、論文ならびにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。